

輸出事業計画

※申請者名：鹿児島製茶株式会社、品目：茶

1. 輸出における現状と課題

● 現状

- 近年の緑茶の価格について、平成16年まではペットボトル緑茶飲料の需要拡大に伴い上昇したものの、以後低迷が続いている。
- 緑茶の消費量について、緑茶(リーフ茶)は減少する一方で、緑茶飲料は増加している。しかし令和2年は、巣ごもり需要の拡大により、リーフ茶の消費量・売上ともに増加傾向が見られる。
- 近年、国内の緑茶(煎茶等)の消費が低迷する一方で、海外では健康志向・日本食ブームに起因し、緑茶とりわけ抹茶を中心とする粉末茶の需要が伸びている。

● 課題

【生産・製造】

- 海外を中心とした有機栽培茶需要の拡大に加え、国の「みどりの食料システム戦略」に掲げる成長戦略に対して、まだまだ供給量が需要量に追いついていないため、圃場の拡大、生産量の増強が必要である。
- 輸出先国が求めている品質の再現性を高くする必要がある(年によって出来不出来の差がある)。

【加工】

- 高品質な茶葉の提供に向けて、茶葉の外観を良くし味わいを高めるために「茎」等を除去したり、安心・安全な製品に仕上げるために圃場・荒茶工場由来の異物を除去したりする必要がある。また、製品の価格競争力も高める必要がある。
- 価格競争力のある茶葉を提供するために、歩留りを良くし、製造原価の低減、製造時間の短縮を行う必要がある。

【流通】

- 取引先からの要望へ迅速に対応するために、現地での商品保管場所を拡大し、現地での対応力強化を図る必要がある。
- 船便での輸送確保が、世界的にも困難な状況である。

【販売】

- 消費量アップ及び客層拡大のため、より多くの多様な消費者へ自社製品を訴求する必要がある。販路を増やし、より安定した収益を上げる必要がある。
- 提供している商品の欠品が生じやすいため、商品の供給力を強化する必要がある。

輸出事業計画

※申請者名：鹿児島製茶株式会社、品目：茶

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産・製造】

- 生産者との協力体制づくりをし、供給量の確保に努める。年に1回以上、生産者との協議の場を設け、需要に基づく製造計画の策定を行う。
- 生産者が荒茶を生産する際に、取引先の意向等を伝えることで加工方法を協議・改善し、輸出先国が求めている品質に即した製品を製造する。

【加工】

- 茶葉の外観をよくするために2021年に新型の色彩選別機を導入した。この専用機を活用して、2023年2月までに各茶葉の価格帯ごとの「茎」除去に関する判断基準の確立及び従業員への設備使用を含めた教育訓練を行い、高品質の製品製造及び製造時間の短縮を実現する。また近年、国内外向け焙じ茶の製造件数及び製造量が増加しつつある。現状の設備では処理能力の関係上、納期遅れが懸念されてきており、今後、製造対応の強化を行っていく必要がある。なお焙じ機を使用する茶種は主に煎茶、棒である。
2012年に取得したFSSC22000の認証を継続して取得する。1名駐在している予防管理適格者(PCQI)を中心に、食品安全チームメンバー及び一般従業員への教育訓練を計画及び実行する社内運用システムを構築する(2021年度より暫定的に実施中)。
- 生産者との協力体制を築いたうえで、粉末製造機の増設や粉末缶詰機の導入など機械化を促進することにより品質確保をはかる。

【流通】

- 現地物流企業と商品保管場所の拡大及び対応力強化について、運用面等を協議していく。
- 取引先と協議し、発注ロット数量の増加や航空便への切替え対応を検討・実施する。

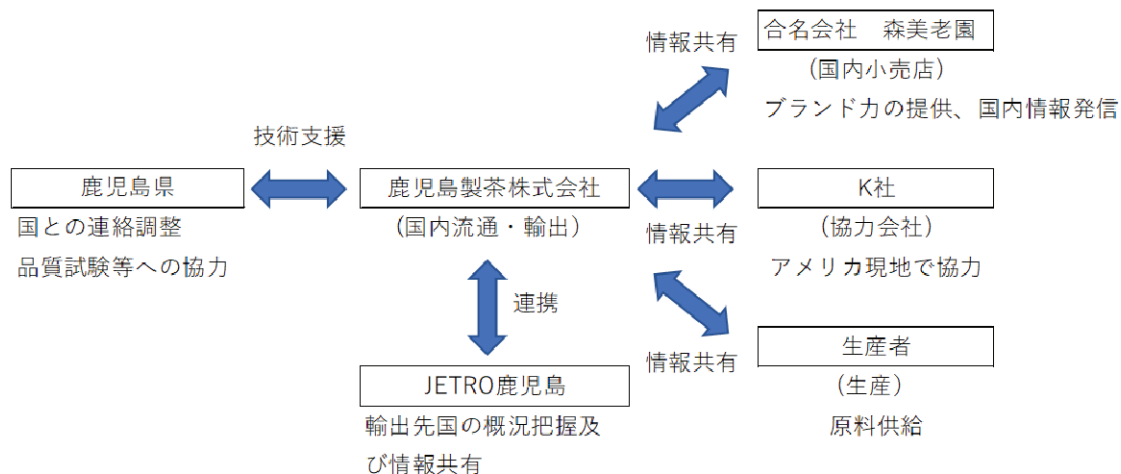
【販売】

- 既存取引先の深耕に加え、新規取引先への商品提案を順次行う。
- ① 大手取引先だけでなく、MATCHA専門店やカフェなど小規模取引先も視野に入れて提案を行う（現在、7社と協議中）。
- ② 取引先への商品提案として、先方の要望を確認したうえで、2022年10月までにサンプル品の提供を実施する。
- ③ 新規取引先を開拓するための情報チャネルとしてJETRO鹿児島のメールマガジンに登録しており、今後とも同ツールでの情報収集を行うほか、JETRO主催のセミナーや商談会の日程等も確認して、それらに随時参加する。併せて農水省の「GFP」の活用もしていく。
- ④ 当社ホームページを通じた問合せも多いため、問合せ対応を強化し新規開拓に繋げる。閲覧・問合せ数増加をはかるため、ホームページ改修、コンテンツ拡充を行う。
- ⑤ メール対応やオンライン打合せ等により既存取引先の商品への要望を聴取するとともに、当社からは産地の現状を共有するなど、取引先が必要とする情報を随時伝えることで信頼関係の構築・強化をはかる。

輸出事業計画

※申請者名：鹿児島製茶株式会社、品目：茶

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 目標額

	【現状】 (令和3年度)	【目標】 (令和7年度)
輸出額 (円)	2億8千万	4億
輸出力 (t)	33.0	59.0
内訳) 煎茶	21.0	41.3
粉末茶	11.0	15.2
焙じ茶	1.0	2.5
主な輸出先	アメリカ	アメリカ、 ヨーロッパ方面 (ドイツ、スウェーデン他)

- 令和7年度に4億円を目標額とする。
- アメリカ、ヨーロッパ方面への輸出に注力する。